

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表：令和4年3月31日

事業所名

|                 |   | チェック項目   | はい   | どちらとも<br>いえない | いいえ | 工夫している点                                    |
|-----------------|---|--|------|---------------|-----|--|
| 環境・<br>体制<br>整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である                                  | 83%  | 17%           |     | スペースの使い方を固定せず、柔軟な使い方ができるような作りになっている        |
|                 | 2 | 職員の配置数は適切である   | 100% |               |     | 毎回は難しいが、できる限り同性介助を心がけている                   |
|                 | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている                           |      | 100%          |     | ビルの共用部分の安全面に関するご意見を頂いたので、張り紙などをして注意喚起している  |
| 業務<br>改善        | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している                | 50%  | 50%           |     | こまめに子どもたちの状況についてのミーティングを行っている。             |
|                 | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている     | 100% |               |     | 郵送での返送もできるようにした所、より率直なご意見も頂けるようになり、感謝している。 |
|                 | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している                           | 100% |               |     | 今年はインスタグラムでも公開する予定                         |
|                 | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている                             | 17%  | 17%           | 66% | 現状では実施していない。                               |
|                 | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している                                | 100% |               |     | いろいろなタイプ外部研修を行い、復命という形で研修を行っている。           |
|                 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 100% |               |     | 保護者様とのやりとりをなるべく反映できるようこまめに記録に残すようにしている。    |

|    |  |     |     |     |   |
|----|--|-----|-----|-----|---|
| 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 34% | 66% |     | 色々参考にはしているが、決まったものを毎回使っているわけではない。                                 |
| 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている                       | 83% |     | 17% | イベントなどは特定のスタッフが立案することも多いが、各スタッフが情報収集をしてきて共有しているので、チームで実施していると言える。 |
| 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している                     | 67% | 34% |     | スタッフそれぞれが色々な活動に関する情報を集めてきて、提案してみることも多い。                           |

|          |    |   |      |     |  |  |
|----------|----|---|------|-----|--|--|
| 適切な支援の提供 | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している                                    | 67%  | 34% |  | すべての子に実施しているわけではないが、長期休暇時など利用時間が長くなる時には、本人が無理なく取り組めるようなスケジュール設定になるようにしている子もいる。 |
|          | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している                      | 100% |     |  | 計画は個別活動と集団活動を組み合わせて作成している。   |
|          | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している                        | 100% |     |  | 送迎に関する打ち合わせや事前に学校や保護者から入っている情報の共有を行っている。                                       |
|          | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している                   | 100% |     |  | その日の子どもたちの様子に加え、送迎時に保護者の方から教えていただいた情報などに関しても共有している。                            |
|          | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている                               | 100% |     |  | 個別支援記録を記入する前に別のスタッフにも確認しながら、できるだけ正確に記録を取れるようにしている。                             |
|          | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している                             | 83%  | 17% |  | 基本的には半年に一度モニタリングを実施している。   |
|          | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている                                       | 66%  | 34% |  | さまざまな活動をバランスよく行えるように意識している。  |
|          | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している                     | 66%  | 34% |  | 基本的には自発管が参画している。   |
|          | 21 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている | 100% |     |  | 学校にお迎えに行った際に先生方から様々な情報を教えていただいている。電話で連絡してくださる先生もいらっしゃる。                        |

|             |    |   |     |     |     |   |
|-------------|----|---|-----|-----|-----|---|
| 関係機関や保護者との連 | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている                         | 17% | 50% | 33% | 対象児童がない。                                    |
|             | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている            |     | 50% | 50% | 児発の事業所とは軽く情報共有をしたことはあるが、正式な形での情報共有は実施していない。 |
|             | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 17% | 66% | 17% | 基本的には中学生までの受け入れがほとんどなので、まだ実施したことはない。        |
|             | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている                      | 17% | 33% | 50% | 専門機関の研修は機会があれば受けているが、コロナ禍ではあまり実施できていない。     |

|            |               |  |      |     |  |   |
|------------|---------------|--|------|-----|--|---|
| 携          | 26            | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある                              |      | 66% | 34%  | 地域でのイベントに参加したり、外出したりするとき自然な形で交流はあっている。                              |
|            | 27            | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している  | 17%  | 50% | 33%  | ちようどサービス提供時間と重なる時に会議があったりするので、ほとんど参加できていない。                         |
|            | 28            | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている                     | 100% |     |  | 日頃から気になったことがあればできるだけ早く保護者様と情報共有をできるよう心がけている。                        |
|            | 29            | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている                    | 17%  | 33% | 50%  | 送迎時などにご覧いただけるよう療育に関する本や資料は玄関に置いている。                                 |
| 保護者への説明責任等 | 30            | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている                                   | 100% |     |  | 契約時と情報が変わった際に説明を行っている。  |
|            | 31            | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている                           | 100% |     |  | すべてのスタッフが日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めているので、気軽に話をしやすいのかもしれない。                  |
|            | 32            | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している                       |      | 17% | 83%  | 現状では実施できていない。   |
|            | 33            | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 83%  | 17% |  | 苦情につながりそうな出来事などはできるだけ早い段階で保護者様との情報共有を図り、影響が小さい内に不安の種をつぶせるように心がけている。 |
|            | 34            | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している                   | 83%  |     | 17%  | 行事予定は紙で、活動の報告はインスタグラムなどで実施している。                                     |
| 35         | 個人情報に十分注意している | 83%  | 17%  |     | 文書に名前を残さない事やインスタグラムでの写真公開の際も顔は隠すなどの対策を行っている。 |   |

|    |                                      |     |     |   |
|----|--------------------------------------|-----|-----|---|
| 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 83% | 17% | 耳からの情報が入りにくい子のために絵や文で伝えたり、場面緘黙の子たちのために意思表示カードを作ったりしている。 |
| 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている   |     | 50% | 50%<br>地域の方との交流はあるが、行事への招待などは行っていない。                    |

|         |    |  |      |     |     |  |
|---------|----|--|------|-----|-----|--|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している                                | 83%  | 17% |     | マニュアル作成はしているが、周知は十分ではない。                 |
|         | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている   | 100% |     |     | 長期休みの時などに避難訓練を行い、防災に関するイベントも企画している。      |
|         | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている   | 100% |     |     | 外部研修の復命を実施している。                          |
|         | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 17%  | 66% | 17% | そもそも該当する児童が少ないが、突発的に拘束が必要になる場面は十分に考えられる。 |
|         | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている   | 17%  | 33% | 50% | アレルギーのある児童はいるが、医療的な指示が必要になるレベルではない。      |
|         | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している  | 66%  | 34% |     | 業務日報の中でヒヤリハット事例を記載している。                  |

(公表)

えいぶる本庄

| 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標  |
|---|
| マットなどで仕切ったりしているが、音の入り方や安全に遊ぶことを考えたらもう少しスペースが欲しくなる。音に配慮したり、時間を分けるなど、安全に遊べるよう工夫していきたい。                  |
| 送迎時間が重なったりするとスタッフが足りないと思う時もある。ある程度の役割分担はしているが、特定のスタッフがやるだけでなく状況に応じて他のスタッフでも対応できるように経験を積んでいってもらう必要がある。 |
| ハード面の改善には限界があるので、まめに声掛けしたり、手伝ったりする形で、お客様がなるべく不自由を感じないですむようサポートしていきたい。                                 |
| それぞれ状況は把握していても、それからどんな課題が導き出され、どういう目標を立てて改善を目指していくかという視点で話す機会は少ないので、来年度から担任制で積極的に参加するように促していく。        |
| 今年は返送数が少なかったため、時期や募集期間などを考慮し、より多くの保護者様からご意見をうかがえるようにしていきたい。   |
| 来年度は取り掛かりをもう少し早くし、印刷した形態でも見ていただけるようにしていきたい。   |
| コロナが落ち着いてきたら外部との交流をはかり、外から見ただけの機会を増やしていきたい。   |
| さまざまな参考教材を用意し、自由に見てもらえるようにしている。委員会活動も義務化されるため、外部教材も利用しながら、スタッフが講師になる形での研修も実施していきたい。                   |
| 来年度から担任制を取り入れ、アセスメントにもいろいろなスタッフの目が入るよう工夫していく。   |



来年度から外部教材（ストラテジーシート）など、ある程度標準化されたものを共通して用いるようにする。

イベントなど、集団で実施するようなプログラムに関しては引き続き色々な意見を集約して実施していきたい。

なじみのある活動と新しい活動を上手に組み合わせながら、子どもたちが無理なくさまざまな活動に取り組めるよう工夫していきたい。

長期休暇のときには集団スケジュールで動くことも多く、個別の課題をなかなか丁寧にみることができている状態ではある。担任制を取り入れるので、個別の様子を注視し、課題設定に取り入れていきたい。

計画とその子の現状が食い違ってきている場合がある。完全に盛り込むのは難しいにしても適宜修正していく必要がある。

下校時刻の勘違いなどがまれにあるため、LINEなども活用しながら情報共有を上手に行えるようにしていきたい。

子どもたちがまだいる段階で情報共有をすることもあるので、個人情報に留意しながら行っていくようにする。

主観が入り込んでしまったり、個人情報の面での配慮が不十分だったりすることもあるので、ふさわしい記録の取り方についての研修も行っていきたい。

その子の状況に応じて、もっと短いスパンでモニタリングできるようにしていきたい。

利用回数が少なかったり、利用時間が短い児童はどうしても活動内容に偏りが出てしまうので、短時間でも実施できるようなプログラムなどをあらかじめ用意しておく必要がある。

担任制を取り入れるので、状況が許せば担任プラス自発管といった形での参加もしていきたい。

やりとりがあまりない学校もあるため、今後は連携を図る機会を作っていきたい。

精神疾患の児童は在籍していたので、今後も受け入れる時には医療機関などとの連携を図っていききたい。

一年生の児童を受け入れる際には実施できるようにしていきたい。

高校生を受け入れるようになり、必要になったら実施していきたい。

コロナが落ち着いてきたら、外部の研修を受ける機会を増やしていきたい。

グレーゾーンの子たちが多く、障がいのあるなしで別れて活動するという意識すらない子も多いので、自然な形で活動を楽しめるようサポートしていきたい。

放課後等デイサービス連絡会には参加し、情報共有を行っている。

送迎時にお伝えすることが多いので、不在の場合などにはなかなか連絡ができないことも多い。LINEや電話なども使いながら、こまめに連絡がとれるようにしていきたい。

ニュースレターやミニコラムのような形での情報提供もやっていきたい。

加算など利用料金に係るような場合にはより丁寧な説明を心がけていきたい。

専門的なアドバイスは難しい場合もあるので、研修などでそれぞれのスタッフが知識を増やしていけるようにしていきたい。

コロナが落ち着いたら保護者参加型のイベントなどを企画していきたい。

子どもによってはうまく気持ちを表現できず、後から全く違う形で表現したりする場合もあるため、それぞれの伝え方の特性などを把握し、あったやり方での対応をしていきたい。

活動内容の報告だけでなく、ミニコラムなど内容を充実させていきたい。

子どもたちの目が届くところで個人情報を扱うこともあるので、気を付けていきたい。

それぞれの特性を把握して、各自に伝わりやすい仕方で情報を伝えられるよう工夫していきたい。

防犯面も考慮しながら、地域の方に事業所を見ていただく機会を作っていきたい。

感染対策や緊急時の対策などは定期的に文書の形で出しているが、マニュアルという認識には至っていない。委員会活動も始まるのである程度情報を整理して共有していきたい。

災害時の保護者との連携が課題なので、今年度取り組んでいきたい。

委員会の設置をするので、もっと研修の頻度も増やしていきたい。

契約時に説明はしているが、拘束がどうしても必要になる場合には適切に計画に記載するようにしていきたい。

今後そういった児童が利用する可能性もあるため、アレルギーに関する研修なども必要に応じて実施していきたい。

集計できる形ではまとめていないので、今後データ化しやすい形でまとめるようにしていきたい。